

(様式3)

自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	開設時に代表者、管理者、職員と共に作りあげた。	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	理念及び年度毎の業務目標を詰め所内にも掲示し、毎朝申し送りの際に唱和している。	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	運営推進委員会、実習生の方々にはその都度、ホームでの理念の意味を話している	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	入居者の方々と共に散歩に出た際には、職員側より積極的に挨拶を行なっている。	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	老人会に継続的に参加し続け(ハンドベル)、ホテルでの発表会に一部の入居者の方が地域の方々と共に舞台に立った。	今後は特定の入居者の方々だけではなく、可能な限り他の入居者の方にも参加して頂ける様な環境や関係作りを構築していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在、取り組みは行なっていない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年、管理者、常勤職員全員で自己評価を行なっている。毎年を通して全職員が評価をする事で、共通認識が生まれるようになってきている。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催している。その場には入居者の方にも参加して頂き、ホームの現状や運営状況をそのまま報告している。又、ホームの今後の方向性等についての意見を伺っている。		運営推進会議の意味を理解していく為にも、今後は管理者だけではなく、常勤職員にも会議へ参加する様にしていきたい。
9 市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者との行き来は無いが、電話やメールでの運営等に関する相談はおこなっている。町に関しては、住所地の変更を申請済み。その後、自治会の運動会等に参加する事が出来た。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員の個人レベルでは、外部研修等で聞く程度である。事業所を上げての取り組みは無い。		現在、成年後見人制度の申請に向けて、役所に相談中。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に一回は虐待についての研修を行なっている。今年度に関しては、事例を通し感想文を作成。入居者の原因不明の打撲痕は、必ず記録をとり、全職員が周知する様に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は行なっていない。離職もここ数年なく、入居者の方々も職員の名前を覚えて下さる方もおられる。離職に対しては、職員の意向もあり、一概には言えないが、職場環境の改善には出来る限りの努力はしている。		職員の退職等の際は、入居者に説明を行い、入居者と職員と共に送別会等を開催している。
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報は全て、常勤、非常勤を問わず何時でも閲覧できるようにしている。希望者に関しては、費用から交通費まで全て、施設が負担している。原則として、有給休暇を使用して外部研修に参加している。併設の施設研修にも参加できる体制をとっている。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、同区の連絡会に定期的に参加している。他GH職員の見学の受け入れは、常時行なっている。職員からの希望があれば他GHに何時でも見学にいける体制は出来ている。		併設の老健施設にGHとのケアの違いを知る事を目的に、職員は順次、研修として老健に従事した。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	同法人内の医療施設の利用は、施設負担。年一回の社員旅行。外部業者を利用した福利厚生等、整っている。職員の配置は余裕を持った配置にしており、希望時には有給休暇が何時でも取れる体制である。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	将来的に必要な資格、研修等については積極的に受講する様に勧めている。また、それらに伴う勤務的な配慮も行なっている。		今後は、職場においての働き続けることの出来る環境整備をおこなっていききたい。介護職としての地位向上や、待遇の処遇改善を視野にいれての職場作りをしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居時には、まず他入居者との関係作りより、職員がマンツーマンで過ごす事に時間を取っている。その際にご本人からの不安な気持ち等を聴き、職員間で把握に努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご家族に対しては、相談時よりGHについてのメリット、デメリットについての説明を行なっている。また開設以来の様々な事例を通して学んだ事等も踏まえた上での、情報提供を行なっている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談時には、まずGHありきでは無く、様々な社会資源の情報、使い方を説明している。また、認知症についての対応方法やご家族のあり方等についても、相談があれば、可能な限り相談に努めている。</p>	<p>GH入居に際しての相談ではなく、認知症に関する全般の相談業務の様な窓口を設けたい。それらを通して地域への認知症介護の発信源になれるような施設作りを目指したい。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>サービス利用前より、ご本人とご家族には、ホームに来て頂く様にしている。その際、行事や昼食の時間等、ホームでの日常を見て頂ける時間帯を勧めている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日常生活においては、職員の働き掛けにより家事を行なっている部分は否めないが、本人の出来る事や、趣味においては職員が学び、教えを乞う事も多々ある。又、共に笑い冗談を言い合う場面もある。</p>	<p>職員に心の余裕が無い際は、介護者、要介護者になってしまう事もあるが、職員間で協力できる様なチームワークを形成したい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 利用者と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	ケアに行き詰まったり、入居者の真意が解らない時には、ご家族に相談したりヒントを頂いたりしている。又、外出の際はボランティアとしての参加を募り、共に外出を楽しんでいる。		外出の際の写真をご家族に見て頂ける様に、毎月の手紙で連絡をしている。
29 利用者との家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には、今までの関係や認知症を発症してからのご家族の思い等を聞かせて頂いている。それらを職員間で共有し、日常のケアに活かせる様に配慮している。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方から来られた面会の方や、ご家族の来所時には、居室でゆっくりと過ごせる様に努めている。馴染みの場所等は、誕生日等の際に職員とマンツーマンで出かける事をしている。		今後は、場所だけではなく、馴染みの人に会える様な支援を計画していきたい。
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	時には職員が仲介となり、関係作りの修正に努める事もある。また、必要以上に入居者同士の関係に入らない様に考慮している。		
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後、ご家族の方が必要であれば、情報提供や他施設での生活についての相談をおこなっている。又、退去後に面会（入居者）に行ったりしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>クラブ活動、行事、散歩、果てはお茶の時間においては、それぞれの嗜好をその度に聞き、本人の意向を確認して、提供している。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前より、ご家族から情報収集に努めている。入居後も引き続き、ご本人を中心として把握に努めている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>表情やご本人の言葉、行動から真意を模索する様に努めている。又、必要な方には一日の食事内容や、嗜好品の傾向等を記録。それらを全職員で周知できるように努めている。</p>	
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ご家族からの意向は入居時に聞き、入居後も計画が変更の際や、新たな計画についての立案の際にも相談している。月2回のミーティングの際には、必ず計画の見直しを全員で行なっている。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>期間毎の見直しは、月2回のミーティングにて行なっている。ミーティングの開催までに間に合わない新たな計画の立案は、書式の工夫、連絡方法の工夫で職員間の連絡を密にして、結果を記録し立案まで持っていくようにしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は個別記録としてカルテに記載している。介護計画と連動できる様に、カルテにも工夫している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	短期利用共同生活介護の指定は受けているが、現実的には、無理がありサービスの提供は行っていない。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的なボランティアが7件、不定期なボランティア2件を受け入れている。警察、消防、百貨店、等の緊急マニュアルを作成している。		
41	他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご家族、見学者からの相談等にはその都度情報提供を行なっている。又、区内のGH連絡先の一覧や、介護支援事業者の紹介等もおこなっている。		
42	地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議には、理解を頂き、毎回参加して頂いている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、かかりつけ医の有無や意向を聞いた上で、敷地内のクリニックを説明し同意が得られれば、そちらに定期的にかかる様にしている。		今後とも、かかりつけ医がいるのであれば、その事を踏まえた上で、ご家族、入居者共に不利益が生じない様に、模索していきたい。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医は、専門医では無いが日常的には適宜、アドバイスは頂いている。又、併設の施設に往診に来て頂いてる精神科医師にも、協力して貰える体制を整えている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	敷地内にあるクリニックの看護師とは日常的に相談している。又、情報交換も密に行なっている。認知症に理解も示しており、受診に際しても配慮して貰っている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力病院との連携はできている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に終末期についての意向はご家族より聞いている。入居後はその都度、職員、ご家族、かかりつけ医とその都度話し合い、方針を決めている。又、看護師とも情報を共有している。		看取りを終える事が出来たが、そこで学んだ事を踏まえて、今後は、ホームとしての方針を職員と共に模索したい。その上で、今一度、グループホームとしてのあり方や存在意義をしっかりと考えていきたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化に伴い、ハード面での設備を整える事は必要である。今回の看取りを踏まえた上での、問題点や改善点を整理し検討をおこなっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>49</p> <p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>情報提供書等以外に、文章にてホームでの生活状況、当ホームでのケアの在り方等を作成し、情報提供を行っている。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50</p> <p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居時に個人情報に関しての、守秘義務等の誓約は文章にて取り交わしている。その方に合った言葉や、その方が理解しやすい言葉を選んで話している。</p>		
<p>51</p> <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>その人の言葉で、話しかけている。職員が判断に迷う際は、入居者に判断を委ねるようにしている。</p>		
<p>52</p> <p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>完全な希望には添えていない。職員サイドでの行事参加や、外出もある。</p>		<p>可能な限り、入居者の意見を取り入れて日々の日課を決めているが、結果としては、良かった、楽しかった、との思いが残る様に支援を意識している。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53</p> <p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>身だしなみやお洒落に関しては、ご本人の趣味に合わせ支援している。理美容は、併設の出張サービスに頼っている。</p>		<p>毛染めはご本人と共に買い物に出かけて、ご本人の趣味で選んで頂き、ホームにて毛染めを行なっている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>利用者の嗜好の支援</p> <p>利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		オムツ類に関しては、新商品や使い方の工夫を取り入れ、不快感を少しでも減らせる様にしている。
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		入居者の方の気持ちや、入浴に傾くような声掛けや、環境づくりを日々、試行錯誤している。
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		それぞれにあった、仕事や役割(洗濯干し、掃除、洗い物等)を担って頂いている。毎月においては、簡単な手作業を行なっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の入居者の方には、自己管理をして頂いている。自己管理の不可能な方々には、ホームで立替払いをしている。尚、それぞれの財布は預かっており、意図的に支払いの際は、財布とお金を手渡し、ご本人に支払って頂いている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩の声掛け、併設病院までの通院、買い物等において個別の外出を行なっている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に1回は、フロアーの入居者全員で、露天風呂、公共施設、外食等に出かけている。ご家族にもボランティアでの参加を募っている。誕生日には、ホームでの外出より、ご家族との外出を優先しておこなっている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各居室には、電話の設置は無い。必要な際は、事務所の電話を利用して頂いている。季節によっては、葉書を使いご家族への挨拶文を書いて投函する様な支援をしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間内であれば、何時でも気軽に来て頂けるように、意識して日常的に挨拶を心掛けている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は原則として、玄関は施錠していない。日常的なケアの中でも、疑問に思うような事があれば、ミーティングで話し合っている。事例検討を通して、拘束について考える研修も行なっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、緊急時以外は開いている。1日に何度も出入りされる入居者に対しては、マンツーマンで過したり、別のフロアで過して頂く、ドライブに出る等の工夫もしている。		
67 利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	玄関チャイムが鳴ると、職員が意識して玄関を見る。各フロアには、日替わりのリーダー制を取り入れている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	毎日の居室チェックにより、危険物の管理に努めている。それぞれの状態に応じて、ホームで預かる物品は異なっている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット、事故報告書の記入。月末にはその月に起こったヒヤリハット、事故についての再発防止を協議している。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急マニュアルは、何時でも見れる状況である。併設施設のAED研修、心肺蘇生法に参加している。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、避難訓練を実施。入居者、職員共に、避難先まで避難する等、実際に想定しての訓練を実施している。		緊急時用に、ペットボトルでの飲料水、保存食を常備している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居相談の時より、より生活に近い環境である事 のリスクについて説明している。玄関開放によ る、転倒、行方不明、台所での刃物を取り扱う事 の事故等。入居後は、その都度ホームの方針とご 家族の意向について話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化に気付いた際は、観察、記録、職員間 の連絡を速やかに行なっている。週末や、祝日等 に差し掛かる際には、早めの受診を行い、かかり つけ医の指示を得るようにしている。		
74 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に処方箋を管理している。薬の変更があった 際は、薬剤師や看護師に用法や注意点を相談して いる。入居者の服薬状況をかかりつけ医に相談 し、薬の形状等にもそれぞれに適した薬の形態を 処方していただいている。		
75 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	飲食物は、それぞれの嗜好にあわした物を提供 し、より多くの水分や乳製品を摂って頂く様に工 夫している。ご本人の排泄リズムを把握出来る様 に記録や、申告して頂ける様な声掛けをおこなっ ている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	週2回の義歯洗浄。就寝前の口腔ケアを行ってい る。必要時には、歯科衛生士による、口腔洗浄も 行なっている。		昼食後も口腔ケアを行なう様に支援している。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な方には、水分、食事量を記録している。個 別には、清涼飲料水等ご本人の嗜好に合わせた物 を提供している。ホームの時間枠に捉われず、飲 んでいただける時間に飲んで頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	各、感染症の対応マニュアルを作成している。風邪の流行る時期には、手洗い、うがいを励行している。うがいの出来ない方には、お茶や、紅茶を飲んで頂いている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器類は全て乾燥機にかけ、布巾は週に3回、漂白している。併設からの調理品は2時間経てば、破棄している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	1年を通して、玄関周囲には何らかの花が咲いている。玄関先には、ベンチ及び机を置いている。		玄関周囲に畑を作り、各種の野菜を入居者と共に栽培している。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分には、入居者の方々が活けた花を置いている。壁には、外出時の写真の展示。トイレに造花を飾っている。その季節に応じた展示物を展示するように心掛けている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、自席以外に複数の椅子、ソファを置いている。廊下には、ベンチ、畳コーナーを設置している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時には、今まで使用してきた家具類を持って来て頂く様に話し、その意味合いも説明。同意を得ている。又、ご家族の写真等、ご本人に必要な物についても相談しご持参して頂いている。</p>		
<p>84</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>各居室のエアコンは、事務所にて集中管理している。毎朝、居室のベランダを開けて換気をしている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>85</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>それぞれの身体状況に応じた対応を行なっている。車椅子、老人車、杖等。廊下には全て手すりの設置。</p>		
<p>86</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>入居当初は、居室に張り紙をしたり、トイレには立体的な表示盤の設置を行なっている。</p>		
<p>87</p> <p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>ベランダ前には椅子を置き、玄関周囲には机、ベンチを置いている。</p>		<p>玄関周囲に畑を作り、各種の野菜を入居者と共に栽培し、日課として水やりや収穫を仕事としている。</p>

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自分で出来る事は、自分でしてもらえようような支援、工夫、笑いのあるフロアー。
座りっぱなしにならないよう身体を動かす、体操をする、用事を依頼する機会を作る。
悩み事は1人でかかえず傾聴できるよう日々の体調、表情の変化に注意する。